

旧八尾中学校・現八尾高校剣道部物語

(剣道全盛時代—剣道廃止、剣道部解散—戦後剣道部復活について)

森本 一 雄(旧46期)

古来剣道と柔道は、武道として学校教育の正課に教科されておりましたが、八尾高剣道部創部の歴史は、何時、誰が創ったのか、古い先輩に聞いてもさだかではない。おそらく学校の歴史と同年であろうかと思う…。私が在籍した昭和15年から昭和20年にかけては、先の大戦の真っ最中であり、剣道部は各運動部の中にあつて華やかな存在であつたように思います。終戦、剣道廃止、剣道部解散、そして戦後の剣道部復活から現時代へと、私たち剣道部の歴史も国家の命運と共に大きく変転しつつ今日に到りました。幸か不幸か、その時代背景は私の剣道歴そのものであり、従つて表題に関しては私の歩んできた剣の道をふり振り返り見つめることにより、ご理解頂けるものと思ひ筆をとりました。此の様な訳で、大方自らの自叙めいたものに成りましたが、ご容赦下さるようお願い上げます。

大戦下の剣道部

私の小学生時代は町や村のあちこちで武道大会が開かれ、私の村でも旧中34期の山本八三郎先輩(故人)が活躍されておりました。又同先輩のご実弟の坂根貞夫先輩(旧中37期・剣道7段教師)が当時竹刀袋を肩に、関西大学に通学なさっていたのを、恰好良いなあと振り返ってみつめていたものでした。小学校6年生のとき、旧中40期の剣道部の方々が小学校の講堂で模範試合を見せてくださいました。之が私が剣道というものに関心を持った最初であり、今を去る50有余年前のことです。挙国臨戦体制に入る前でしたので、剣道は最も華やかな運動の一つであり、私たち子供心にも憧れの的であつたように記憶します。

八尾中に入学して

昭和15年4月、私は大阪府立八尾中学校に入学いたしました。入学と同時に剣道部へと心に決めていたのですが、勧誘してくれる親しい上級生も居らず、入部できたのは3ヶ月程してからでした。

それからというものは明けても暮れても稽古前の道場の掃除、床拭きから始まり、素振り、切り返しの毎日で、なかなか防具もつけさせて貰えず、2年生になる頃に成つて、やっと正式の剣道部員としての自覚も出来て参りました。一時剣道の先生が空席のときも有り、当時5年生で主将であつ



た松尾真助先輩をはじめ大野覺、辻本耕司、藤田仁美、楨野肇、乾亨、田中彰、塩川親弘(故人)、若松純治、高井政好先輩ら旧中43期の方々には基本から教わり、とことん絞られたことが、今考え

れば懐かしいかぎりであります。稽古時間中は始めから終わりまで、少しでも面を取って休んでいようものなら竹刀で所かまわず殴られ、稽古中汗止めの頭に巻いた手拭が緩んできて、目の前が見えなくなっても直させて貰えず、盲同然のまま稽古を続けさせられました。『一度締めた紐、一度巻いた手拭は、最後まで解けないようにしっかりと着けてない方が悪いのだ。敵前で待ったは通用せぬ。』との理由で容赦なく叩きのめされました。そのようにして防具の付け方も、身を持って確実にする習慣をつけさせられました。

黒胴にあこがれて猛練習

白地の薄い稽古着に、竹をつなぎ合わせた様な貧弱な胴の防具しか着けられない私にとって、紺の厚地の稽古着と、胸に校章の入ったピカピカの黒胴、大阪府立八尾中学校、或は大阪府立第三中学校第〇号と大書された竹刀袋、何十年来代々譲り継がれてきた伝統ある防具を使わせて貰えるようになりたい、早く有段者に成って黒胴を着けたいの一心から、打たれても突かれても、先生や先輩めがけて飛び込んでいったものでした。目の前が紫色になり、立っているのさえフラフラの状態にも拘わらず、一つ終われば又次の上級生から指名されるなど、倒れても倒されても稽古をやめてくれようとはしませんでした。負けん気の強かった私などは、絞るのに一番手頃な相手だったのでしょうか。道場に叩きのめされても、それこそ死物狂いで向かって行きました。真夏の土用稽古も、手足のしびれる寒稽古も、唯ひたすらに黒胴を目標に恰好いい防具をつけられる様になりたいと、今思えばたわいもない至極簡単な目標に向かって精進いたしました。長身の上級生の面打ちは、小柄な私にとっては後頭部にこたえ、一瞬頭の先から足の先まで電気が走った様に意識朦朧となることなど常時でした。

斎藤先生、坂根・竹村先輩

当時の斎藤民男先生（剣道正課教師・東京高専出）は、よく単独稽古をつけて下さいました。立ち姿がなんとも言えないスマートな美男子で、とても美人な奥様と母校正門前の北程近いところで新婚生活を過ごしておられたのも印象に残っております。OBの坂根先輩などは、打ち込んでも目の前の先輩の姿は一瞬消えてなく、感じるのは自分の面、小手、胴、の痛さだけ、亦剛剣で鳴る竹村和也先輩（旧中40期）は、心、気、体、充分全身之気魄の塊で仁王様のように見えました。一度胴を打ち込まれると、こちらの身体が振じれてしまう様な痛さは今もって忘れられません。同志社時代、全国高専大会で優勝なさった一番お元気な時分だったと思います。今でも当時の先輩、上級生の方々の得意技から気合（掛け声）——皆それぞれに癖が有りまして——など、私の脳裏にはっきりと甦って参ります。

竹内先生

斎藤先生の応召（召集令状による軍隊服務）により、3年生の時、竹内二郎先生になりました。当時先生から『急、急、ダラリ、ダラリ、急、ダラリ、急、』と言う言葉を良く聞かされました。〈稽古が嫌になっても休まずに、ダラリ、ダラリでも続けなさい。そしたら亦気力充実の時が来る。ダラリ、ダラリは急、急の前兆だと思え。一段上達するときに突き当たる壁だと思え。〉と教えられました。

根からの剣道好きだったのでしょうか。くじける事なく稽古を続けるうちに、子供のころから食べ物に好き嫌いが多くて、極端なアレルギー体質で毎夕通院していた私も、何時の間にか好き嫌いも少なくなり、食欲旺盛で肩や腕の筋肉も盛り上がってくるようになりました。相手が目の前に居るのを仮想しての自稽古に汗を流し、500回の素振

り、60回位の腕立て伏せを欠かさずやり、背筋力テストも学年で1番となる迄の体力が出来て参りました。後年関西学院大学に進み、剣道廃止のため日本拳法部に在籍したころ“ポパイ、こって牛”とよばれる様になった下地は、此の頃の練習のお陰だったのでしょいか。

有段者となる

3年生の春、数え15歳になって初段受験を許され合格、翌年二段に合格致しました。朝礼時全校生徒の前で、当時の高柳清校長より改めて免許状を授与されたときの気持ちは、今だに忘れられません。校長が全校生徒に紹介し免許状を手渡すほど、当時は剣道・柔道は正課として他のスポーツに優先した特権を与えられておりました。

戦争激化

4年生（昭和18年）になってからは、府下中等学校剣道大会も主として運動靴に巻脚絆と言ういでたちで、戦地での野戦白兵戦を想定して野外で行われました。そして昭和19年5年生になってからは、学徒勤労働員として各軍需工場に配属され、国民総戦士と言う当時の国家の施策のもとに武器生産にかり立てられました。私たちが現八尾市主催の武道大会や東洋アルミ（現住友アルミ）や各所主催の武道大会に参加し、相手が一般青年学校や在郷軍人の方々と、剣道・銃剣道の区別なく試合させられ、為に時の配属将校榎野大尉（軍隊から各学校に軍事教練の為派遣された現役将校）相手に対銃剣道の稽古を付けてもらったのも、懐かしい思い出の一つであります。

戦時下にも心のゆとりを

そのころより学校へ真剣（日本刀）を持参し、前記榎野教官、竹内先生や教練の先生方、柔道の秋岡先生（明大柔道部出・当時柔道5段・剣道初段・日本拳法二段）等と試し切りの練習も致しました。今の世の中なら大変なことですが、当時は

全く生きるか殺されるかの第二次世界大戦の末期だったのです。

このような厳しい練習中にも、稽古が終わると、隣の柔道場で柔道着の帯で土俵を造り、上級生下級生の区別なく相撲をとったり、秋岡先生と剣道と柔道の稽古を交互にやり、お陰で首を締められて何回かあの世とやらを見させてもらいました。亦当時は珍しかった日本拳法の基礎を教えてもらったり、同じ武道を志す者として柔剣一体となり、よく練習し楽しく遊んだものでした。

竹内先生に連れられて吉野山へ、和泉山系の犬鳴の溪谷へ、琵琶湖から瀬田川下りの道なき路を、或は剣聖柳生の里へと1泊をかねたハイキングに出かけたり、先生・生徒の隔てなく共に寝、共に食べ、共に歌い、若き生命を発散させると共に、連日の空襲で打ちひしがれた私たちの心に浩然の気を養って下され、一つ釜の下に互いに叩き叩かれて培われた友情を、より強く植え付けて下さったあの時々の楽しい一こま一こまは、私の人生に大きな教訓となって残されております。

秩父宮杯を拝受

当時毎月8日は大詔奉戴日と言って、全校生徒の分列閲兵式が行われておりました。私が1年生のときは、5年生で剣道部の主将であった松本浩先輩（故人—昭和11年全国中等学校剣道優勝大会で見事団体優勝したときの主将）が、3年生のときは2年上級の松本一先輩（海軍兵学校進学）が、そして私が5年生になったとき、両先輩と同じように全校生に号令するように指名されました。2年おきに剣道部員が大隊長の役をやり、先輩部員の名誉を引継ぎ旧中学運動部の中にあつて、剣道部の存在を高めることが出来たことに喜びを感じておりました。昭和20年3月卒業時には、お陰を持ちまして当時運動部員として最高の栄誉と聞かされておりました秩父宮杯を戴くことが出来ました。

之も偏に先にあげた諸先生方や諸先輩、よき剣友の賜物と感謝致しております。

扱昭和20年3月、私たち5年生と1年下の4年生は繰り上げて同時に卒業することになりましたが、国の方針で勤労働員に参加しておりました。従って事実上戦争最後の年の剣道部の主将として終戦を迎えたことになりました。

敗戦—剣道廃止—剣道部解散

米進駐軍の駐留はご他聞にもれず我母校にもやって参りました。

【剣道廃止—防具廃棄処分—日本刀所持者は届出の上全部提出せよ】等等、米兵の日本刀に対する恐怖は想像以上のものがあり、世相は騒然、『亦何時の日にか防具をつけて稽古の出来る日が来るや』私たち剣道部員は進駐軍の居る前で、堂々と日本の剣道とはこう言うものだとか一杯最後の稽

古をやりました。竹内二郎先生を囲んで当時の剣道部部歌を合唱し、最後の記念写真を撮り〈何時か亦稽古のできる日まで〉を約し、涙のうちに伝統ある旧八尾中学校剣道部を解散せざるの止むなきに到ったのであります。あのくやしき、あの淋し



最後の稽古を終えて、剣道部解散の記念写真(昭和20年11月)

上：白石(46) 益弘(46) 村木(46)

井出(46) 児玉(45) 竹内先生 辻本(43) 森本(46)

さは今でもハッキリと此の脳裏に甦って参ります。

“俺いらの住まいは 道場でござるよ

今日も竹刀の 音がする

トコトンヤレ トンヤレナ”

自分の住み馴れた家同然に思っていた道場、部室、防具、之でお別れかと思うと万感胸に込み上げ、部員それぞれ手を取り合って泣いた光景が、恰も昨日のように思い出されます。遠い先輩より受け継がれてきた血と、汗と、涙の染着いた防具を廃棄処分にするに忍びず、各自分散し、自宅の物置や蔵の奥深くに隠したものでした。

戦後30年ぐらいたったある日、私の妻の親戚に当たる故宮野善次郎先輩（旧中34期・海軍兵学校



宮野先輩愛用の防具を囲み
校長室で

卒・204空戦闘機隊隊長・山本五十六連合艦隊司令長官機護衛隊長・ラバウルにて戦死・二階級特進海軍中佐)のお姉さんが来られ、故人が出撃前に母校に寄贈していった故人愛用の防具を捜して欲しいとの依頼がありました。心当たりを方々当たってみたがわからず、駄目かと思っていた矢先に、拙宅の物置の一番奥の隅に有るのを妻が発見してくれました。30年間もの間、人知れずしまわれていた防具、それが自分の縁につながる者の魂のこもった防具であるとは知らずにしまい込んでいた妻、その妻によって発見出来た縁の不思議さに、その叔母も驚くと共に、早速遺族会の要請で遺品

展示場へ納めに参りました。これも防具にまつわる不思議な因縁としか考えようがありません。

戦後の剣道部復活

剣道廃止、それから何年たったでしょうか…。昭和35年頃だったと思います。母校西側の府道を車を走らせていた私の視野に、狐山のふもとの校庭の一隅で防具をつけて基本練習をしている数名の生徒の姿がうつりました。あの懐かしい稽古着姿、私は自分の目を疑いたくなる思いで早速Uターンして、その生徒たちと会いました。反対側の校庭の一隅に、私たちが、亦先輩たちが、血と汗で磨き上げた立派な道場が有りながら使用することが許されず、校庭の一隅で隠れるように竹刀を振る数名の剣道同好会員（高6期・当時大阪医科大生奥村悦之氏と現役生徒数名）に接し、熱いものが込み上げてくると共に「君達には立派な幾多の先輩が居る。必ずあの道場で練習できる様に先輩たちに連絡し力を貸すから、負けずに頑張ってください」と励ましと感謝と無念さが入り混じった複雑な気持ちで、OBとしての約束を致しました。

剣心会、部復活へ執念

思えば剣道廃止の年の主将であった私が、15年

も経った時点で他のOBの誰よりも早く母校内で現役生徒の防具姿に接しようとは、之亦何かの因縁と言うのでしょうか。

早速現役時代一番しごかれ、その後も親しく可愛がって貰っている旧中43期の方以下旧中48期位迄の間に連絡をとり、八尾高校剣道部復活に力を合わせて学校側に交渉すべく、初代会長を旧中43期松尾真助先輩に依頼し、OB間の親睦と八尾高剣道部復活達成の大目的を掲げて、八尾高剣親会は発足致しました。斯くの如く意気込んで発足した剣親会ではありましたが、剣道部復活と道場使用問題は、今更ながらに戦後十数年の世の変転、

歳月の経過の重さ、人の心の移り変わりを痛感させられるのみで、想像以上の難問を抱え如何ともなしがたく、されば、より年長の大先輩のお力を借りねばと先輩から先輩へと遡旧し、旧中32期米谷明尚先輩（明大剣道部卒・大阪剣道連盟創始者の1人）を新会長とし、名も剣親会から剣心会へと改称し、そして現在の八尾高剣道部OB会が出来上がったのであります。しかしながら依然として道場の使用は許されず、町道場を借りたり、或は山間の公民館や寺院境内を借りての夏季合宿等、道場使用を許されぬくやしき、みじめさの中に、ただ歳月だけが過ぎて行くのみでした。

伝統ある剣道部の解散という思ってもみなかった大試練を経験してきた私たち同期生にとっては、何が何でも剣道部復活の願い、いや『悲願』から、ともすればはげしい意見も出ましたが、その都度思慮ある先輩になだめられ指導されて、それこそOB一体となり学校側に交渉すること3年、4年、やっと正式に体育運動部として仲間入りすることが出来たのであります。

当初よりつい最近まで終始変わらず、ずっと現役の指導に尽力して下さった竹内二郎先生、亦旧中37期藤井聖量先輩、そしてそれらの会合の度に、自宅を会場に開放して下さった旧中45期の児玉節雄先輩等は今は亡く、今昔の感に堪えません。ここに慎んで先生、諸先輩方のご冥福をお祈り致します。

斯くの如く先輩やOBのご尽力は勿論のことですが、何が何でも実績を上げ実力を付けて、生徒会でも立派に発言できるようにと歯をくいしばって荒稽古に堪えてこられた当時の剣道同好会員（現役）の努力の結集と思わずにはおれません。そして剣道部解散、復活という、何十年の歴史ある伝統ある母校剣道部の歴史の中で、2つの大きな節目^{フシメ}に直面し、微力ながらも寄与出来たことは、

私自身喜び之にすぎるものは有りません。

“八尾高剣道部復活こそは私の執念でした”

今この稿を書くにあたり、自分の少年時代、青年時代を振り返り、何の悔いもございません。

稽古で培われた友情

道場こそ我住家とし、朝な夕な稽古に励んだ少年時代、青年時代、恐かった先輩、きつかった練習、よき兄貴分としてやさしく指導して下さった竹内先生、当時の恵まれた時代の剣道部に身を置き、剣道廃止後は野球、サッカー、ラグビー等、他の運動部にそれぞれ分散入部し、皆各部の中心選手となるようなスポーツ万能な部員に囲まれ、自らも思いきり若いエネルギーと情熱を発散し切れた少年時代、感受性の一番強い時代に、人生の厳しさとやさしさ、礼に始まって礼におわる剣の心構えを教えて戴き、こんな豊かな思い出を抱かせてくれた八尾中学校と当時の先生方に感謝の気持ちで一杯です。

永年の間、日々の稽古で互いに叩き叩かれつつ、友に先輩に打ち込まれた赤い蒼い傷跡が黒いアザとなって消えるまで、その打ち込んだ友や先輩がいつも自分の身近に居てくれるようで、そこから温かい真の友情が湧いてきたものでした。後年になって一番絞られた先輩や先生、一番よく練習した稽古相手が誰よりも懐かしく感じられるのは、このようなところからきているのではないのでしょうか。本当の意味の此の感じを理解するには、今の現役の皆様には余りにも忙しく、限られた時間が余りにも少なすぎると思います。

稽古で培われた精神力

体力、肉体は年齢と共に衰えても、稽古によって培われた精神力は幾つになっても変わらず持続させられるもの、単に技だけを磨いても、その技は自分の体力と共にいつかは一粒の泡の如くに消えてなくなるものであります。外科の医者が肉体

的な諸条件から、メスをにぎれなくなったときほど淋しいことはない、と友人から聞かされておりますが、それと同様スポーツ選手が身体の故障から、一切の運動が出来なくなった時ほどみじめなことは有りません。その時その人にとって果たして何が残るのでしょうか。精神面しか有りません。壮年から老年になっても変わらぬ精神面の修業こそ、高校スポーツの原点ではないかと思えます。私が5年生のとき、狐山のほとりの小石の混じるグラウンドで1・2年生は1時間、3・4年生は2時間、ぶっ続けに正座し発生練習や沈思黙考を行ったことが有りました。私は都合3時間小石の上で正座致しました。時の吉田安次郎校長先生がとんでこられ「どの先生にしかられたのか」と聞かれ「誰にも怒られたのではありません」と答えたことを憶えております。当時の部員は約30分置きぐらいに襲い来る足の激痛に涙を流しながらも耐え抜きました。終わったとき運動場の小石が足に食い込んで一つ一つ指ではじきださないと取れなかったのを記憶しております。今の時代では此の様な事はかえって膝を痛める等の理由で歓迎されないと思いますが、当時は5年間ありましたので、いろいろな面での鍛え方にその時日の余裕がありました。「やったら出来る」と言う技プラス精神面を鍛えたのも今は懐かしい思い出の一つでありま

す。最近膝の故障で正座が辛く感じる私ですが、それでも此の3時間の正座を思い出すと不思議と堪えられる私です。

最後に剣道部復活に際し、学校長の要職に有りながら一剣道人として、或は剣の道の先輩として、自ら防具をつけ現役の指導にOBとの接触に日々ご腐心下さった高垣又太郎元校長先生のご恩を忘れてはなりません。今ここに更めて高垣元校長始め歴代校長、部長の先生方に深く感謝する次第です。そして現役諸君には、幾多の先輩の残せし伝統をしっかりと胸に叩き込んで、堂々と胸を張って剣の道をとおして二度と来ない青春時代を力一杯生き抜いて戴きたいと希望致します。

余録になりますが先輩から伝え聞いた旧八尾中学校の応援歌を、記憶に残っている部分だけ記録することとします。

- | | |
|------------|-------------|
| (一) 河内原頭 | こち
東風吹きて |
| 咲くや万朶の | 山桜 |
| 花の吹雪は | 降り注ぐ |
| 健児われらが | 晴れ舞台 |
| (二) 八尾中健児が | 熱血の |
| 溢れて凝りて | 染めなせし |
| 輝く中字の | わが校旗 |
| 仰げこの旗 | このひかり |

(終り)



昭和47年、夏季合宿(山村の公民館)



昭和48年、OB現役合同稽古(八尾高・新道場)

武道の精神で

山西 敏一(旧49期)

「十年一昔」という言葉がありますが、私が八尾中学(現八尾高)の剣道部へ入部したのは戦時下の昭和17年4月、八尾中入学当時であり、46年の前でありますから随分昔の事になったと思うと共に、私達の年齢は現在60才で還暦を迎え、先日は旧八尾中48・49期生で還暦記念同窓会を開催し、揃いの赤いチョッキ姿で写した写真を見るにつけ、思い出がよみがえり感慨無量であります。

私が剣道部へ入部した動機は、勿論戦時下と言う社会的背景もありましたが、本当の動機は私自身生来気が弱い性格で、人知れず悩んだ事も度々あり、この弱い性格を何とか直したい気持ちがあったからであります。武道、特に剣道によって、ファイトをつけて精神的にも強くなりたいと期待して入部したものであります。

現在の私が時々この様な話をすれば、気が弱かったとは信じられないという人が多いのでありますが、少なくとも同窓生やが当時の剣道部の同輩や先輩は、私の年少期の事を思い出して肯定していただけると思います。

剣道部に入り、現八尾高校のグラウンドの東北の道場で先輩にしごかれ、つらい練習を繰り返しながら汗を流した事は、青春時代の貴重な体験であり、ひいては精神的には剣道によってそれ迄になかった闘志を身に付けられた事を忘れてはおりません。

昭和18年第二次世界大戦が始まり、戦争が激しくなるにつれて通学出来なくなり、当時の中学生迄“学徒動員”が始まり、在校生は分かれて軍需工場へ作業に行き、剣道部の練習も出来なくなり、遂に終戦を迎えました。

現在では、我が国は発展と経済の向上につれ、

あらゆるスポーツも普及しておりますが、武道も見直され、剣道についても愛好者が多く、特に小・中学生で剣道に励む子供が多くなった事は慶びにたえません。当市内でも毎年春秋定期的に剣道大会が開催され、数年前柏原市の第二体育館を通称「武道館」として新築し、この道場で練習に励む青少年が多く、年2回は定期的に剣道大会が開催されております。その開会式の挨拶やその他の場所で「私は常に、現在の青少年には武道の精神が必要であり、武道を通じて何事も忍耐する「精神力」と、最近失われつつある「礼儀」を身につける貴重な体験は剣道で得られると確信する」と言っていて、青少年には勿論、父兄にも力説することにしております。

また、私自身も生来弱かった気性が、現在では剣道のおかげで精神も鍛えられ、一生涯を通じて仕事の上で役立っていることに感謝しております。

今後共、伝統のある八尾高の剣道部が一層発展され、願わくば多くの後輩が剣道を通じて青春時代を有意義に過ごされ、ひいては、心身共に健全な社会人として活躍される事を期待いたします。

(柏原市長)

剣道部におけるOB会と現役との関わり

松永 強(高21期)

私は高21期生(44年卒)で、現役当時をふりかえると、直接指導してもらえる顧問がいなくて、自分達同士で練習することになっていた。その中で、剣道部を出て間もない先輩、あるいは旧制中学卒の先輩方が月1回週1回とか来られて、熱心に稽古に参加して頂いた記憶が強く、今では感謝している。しかし当時は、練習が終わってから来られた先輩が「さあ、少し稽古しようか」などと、また練習のやりなおしをやったり、やや厳し過ぎ

る指導もあり、当惑したことを覚えている。その反面、部員とOBで箕面や室生寺へハイキングをしたり、練習後に喫茶店へ連れて行ってもらったりなど、楽しい思い出も多い。

その後の現役の大きな変化は、男子校の雰囲気強く、女子マネージャーを確保するのも困難であったのに、昭和50年をすぎた頃から、急速に女子部員の入部が多くなっていったことである。また卒業まもないOBが頻繁に練習に来るようになった。また、直接指導して下さる前田先生（6段・体育）を顧問としてお迎えし、毎日指導して頂くと共に、公式戦等の戦績も安定した成績を納めるようになった。

その反面、OB会の活動は、直接指導される顧問を迎えると共に、OB会が直接支えてきた側面がなくなり、現役に対して補助的な本来のOB会の姿、OB会独自の活動を充実させて行く課題が

浮び上がってきた。これからのOB会はどうあるべきか、岐路を迎えたような気がする。



上・昭和51年、女子剣士も混じる

下・昭和50年頃の現役部員